



九州大学における多面的評価の試み Admissions Practices in Kyushu University

林 篤裕 (Atsuhiro Hayashi)

(九州大学 基幹教育院
& アドミッションセンター)
(Faculty of Arts and Science, Kyushu University)
(21世紀プログラム主導教員)

e-mail: hayashi@artsci.kyushu-u.ac.jp



資料掲載URL:

www.artsci.kyushu-u.ac.jp/~hayashi/haifu/#Handai1602

九州大学 概要

総長1・理事8・監事2 計11名

学部 11 (+1)
大学院学府 18

附置研究所等 4
附属図書館 1 (分館6)
(蔵書約400万冊)
病院 1 (約1,200床)
全国共同利用施設 1
学内共同教育研究施設 37
機構 4

2014年5月1日現在

学部学生 11,859名
(女子 3,344名)
大学院生 6,987名
(女子 1,926名)

外国人留学生
1,972名 (79ヶ国・地域)
学生の海外留学 2013年度
612名 (42ヶ国・地域)

教員 2,106名
教授 699名
准教授・講師 732名
助教他 675名
事務・技術職員
2,010名

学部卒業
約14.0万人
修士修了
約5.0万人
博士学位
約2.7万人

土地 約76km²
福岡、長崎、熊本、
大分、宮崎、鹿児島、
北海道



2

2016年度(平成28年度) 入学者選抜

一般入試
センター試験+個別学力検査

前期日程

全11学部 2,045人

80.0%

後期日程

教育、医、芸工を除く
8学部 315人

12.3%

入学定員
2,555人
11学部
+
21世紀
プログラム

帰国子女
私費外国人留学生

AO入試

AO入試 I

[センター試験を課さない]

教育、
21世紀プログラム
36人

7.6%

AO入試 II

[センター試験を課す]

法、理(全学科)、医・保健、
歯、芸工(全学科)、農
159人

3

九州大学AO入試 2016年度AO入試

文学部	
教育学部	10
法学部	10
経済学部	
理学部	
地球惑星	8
化学	15
数学	8
生物	5
医学部	
医学	
生命科学	
看護	9
保健	6
放射線	6
検査	6

歯学部	8
薬学部	創薬科学 臨床薬学
工学部	
環境設計	8
工業設計	15
芸術工学部	画像設計 音響設計 芸術情報設計
農学部	20

21世紀プログラム

26

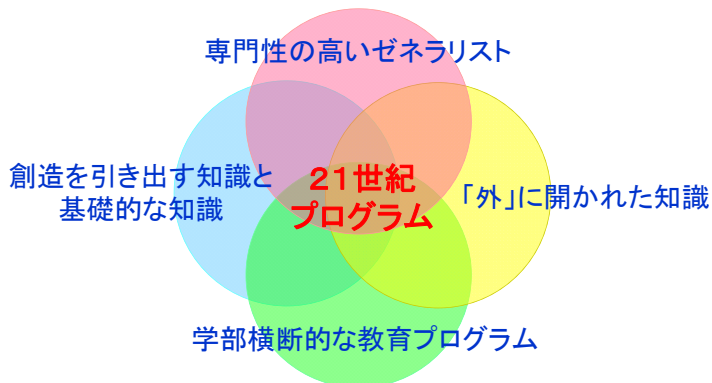
7+1学部 18募集区分
総募集人員 195名

定員の
7.6%

★: センター試験を課さない

4

The 21st Century Program 理念



5

21世紀プログラム:教育の枠組み

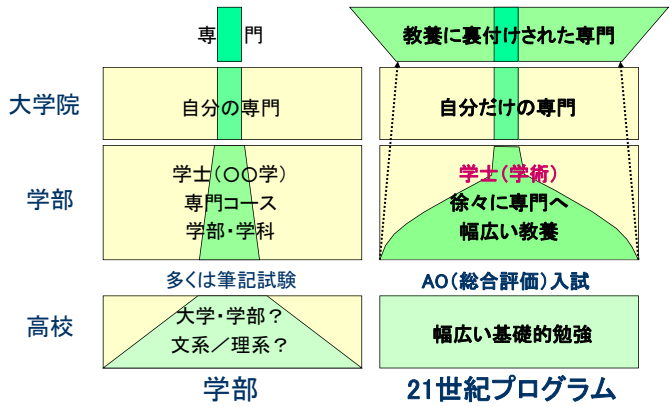
2003年度 文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に採択



幅広い教養、表現力、国際性を身につけ、チューターの指導を受けつつ、
いろんな学部の専門を組み合わせ「自分だけの専門」を創る。

6

21世紀プログラム 専門を決める



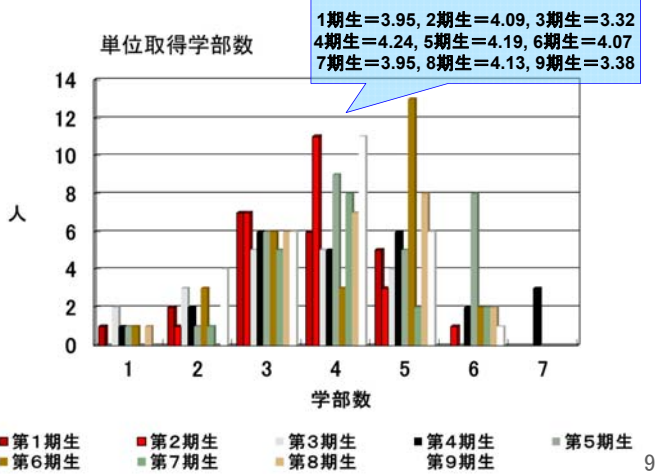
7

The 21st Century Program 教育の柱

- 幅広い教養から専攻テーマ
国際/環境・生命/市民社会/情報
- 表現力と国際性
語学力の強化, 学年縦断のゼミ, 留学の推奨
- 専門性の高いゼネラリスト**
- 学生一人ひとりが自分だけのカリキュラム
チューター制度, 履修指導と体系的維持
- 学生一人ひとりが自分だけの専門
専門委員会での指導・承認, 卒業研究

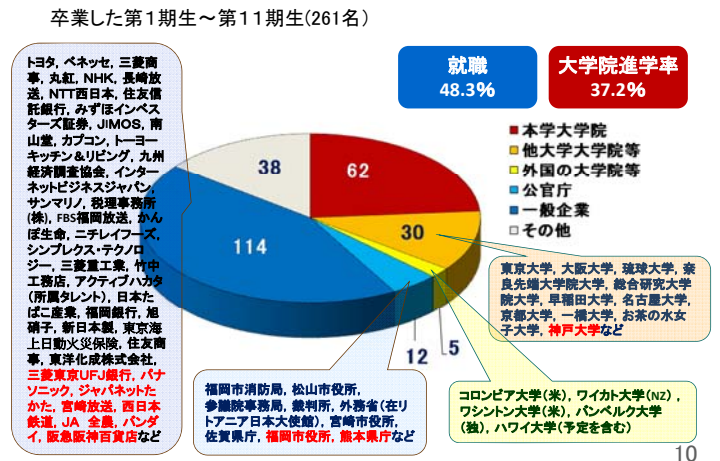
8

The 21st Century Program 履修学部数



9

The 21st Century Program 卒業生の進路



10

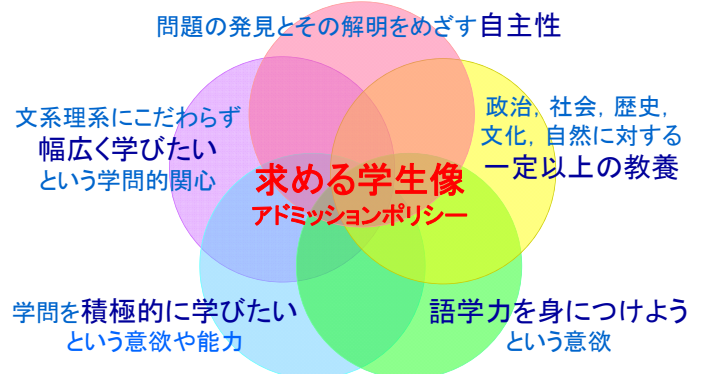
The 21st Century Program 課程現況

	募集		合格者		年度	入学者	転課程学部	交換留学	語学研修等	卒業者	うち大学院進学者
	人数	内訳	人数	内訳							
卒業	1期	18	20 (5)	2001	20 (5)	1 (0)					
	2期		22 (6)	2002	22 (6)	2 (1)	7				
	3期	21	19 (5)	2003	19 (5)	0 (0)	8	20			
	4期		25 (5)	2004	25 (5)	1 (1)	5	8	16	11	
	5期		30 (12)	2005	30 (12)	1 (0)	2	4	25	12	
	6期		27 (7)	2006	26 (7)	2 (1)	10	5	15	9	
	7期		27 (9)	2007	26 (8)	2 (1)	10	2	20	9	
	8期		27 (10)	2008	27 (10)	2 (1)	6	4	33	13	
	9期		28 (7)	2009	27 (7)	1 (0)	9	4	28	7	
	10期		27 (6)	2010	27 (6)	1 (0)	10	6	19	9	
	11期		25 (8)	2011	25 (8)	0 (0)	7	8	27	8	
	在学	12期		28 (10)	2012	28 (10)	0 (0)	6	17	30	11
13期			25 (9)	2013	25 (9)	1 (0)	13	10	24	4	
14期			25 (5)	2014	25 (5)	0 (0)	9	18	24	4	
15期			25 (7)	2015	24 (7)	0 (0)					
総計			380 (111)		376 (110)	14 (6)	102	106	261	97	
在学生数	103 (31)										

(カッコは男子で内数。2015/4/1現在)

11

The 21st Century Program 求める学生像



12

The 21st Century Program 選抜の流れ

願書受付	9月下旬	9/16(水)~25(金)
	調査書, 志望理由書, 活動歴報告書	
第1次選抜	10月中旬 書類審査	10/16(金)頃 1次合格発表
第2次選抜	11月上旬	
第1日目	講義・レポート (3テーマ)	10/31(土)
第2日目	グループ討論, 小論文, 個人面接	11/ 1(日)
合格発表	11月下旬	11/25(水) 2次合格発表

選抜の過程が入学後の修学の過程

(日程は2016年度のもの)₁₃

第1次選抜

- ◆ 出願時提出資料
 - ◆ 志望理由書(2面)
 - 志望する理由、自己の適性や抱負
 - ◆ 調査書等(内申書)
 - ◆ 活動歴報告書(2面): 中学からの活動を記載可
 - 各種活動、表彰、資格等
- ◆ 書類審査
 - ◆ 「AP」や「求める学生像」との合致度合を評価
 - 理念の理解度等
 - ◆ 試験場施設の関係から3倍程度に絞る (2016年度の例では77名。3.0倍)

14

第2次選抜

第1日目(土曜日)

9:30-11:30	講義1・レポート1 (120分)	軸が違う3テーマ 講義:約50分 レポート:約70分
12:30-14:30	講義2・レポート2 (120分)	
15:00-17:00	講義3・レポート3 (120分)	講義や資料に 英語を含むことがある

第2日目(日曜日)

論題は当日朝に提示(“予習”を避けるため)

9:00-11:30	グループ討論 (150分)	3つの講義から2つを選んで討論
12:30-17:00	小論文 (270分)、個人面接	15分/人

3つの講義のいずれかに関連するテーマを設定して作成

随時別室で休憩可

15

The 21st Century Program 講義

年度	題目	
H24 (2012)	1 放射線と健康の科学	直近5年分。全部で16年分あり。
	2 歴史 学問と教科の間	
	3 民主主義の根拠にあるもの	
H25 (2013)	1 「邪馬台国」と考古学 - 通説と考古学の間	楽しく受験することができてよかった
	2 独裁体制はいかに維持されるのか	いろんな方がいてとても楽しかった
	3 The Wonder of Water (水の不思議)	心で惚れ込みました。絶対に来たい
H26 (2014)	1 心は物質に還元できるか?	大学の講義を聴いただけでも、
	2 世界のイノベーション構造の変化 - 「リバースイノベーション」、「イノベーションのジレンマ」	受験と感しないほど明るい雰囲気
	3 生物の自己複製 - DNA複製からIPS細胞の作	初めて会った人とも気軽に話
H27 (2015)	1 身の回りの確率論 - 確率を使って -	何の話があるのか興味津々だった
	2 里地・里山の保全と農山村の持続性 ~ 人口減少社会と集中豪雨災害 ~	
	3 古語は辺境に残る? - 言語史研究の方法 -	
H28 (2016)	1 今、生物多様性を考える ~ 地球規模の課題の解決のために ~	
	2 ものの見える方を考える ~ 文化人類学の視点から ~	
	3 平等のための不平等? --- ポジティブ・アクションの是非 ---	



第2次選抜 グループ分け(討論、面接)

- ◆ 5グループ、各16名まで
 - ◆ 第1次成績を均等化
 - ◆ 右表をベースにし、加えて
 - ◆ 男女比が均等
 - ◆ 現浪比が均等
 - ◆ 地域性が均等
 - ◆ 同一高校別グループ
- なるようにグループを編成

第1次成績

	あ	い	う	え	お
	1	2	3	4	5
	10	9	8	7	6
	11	12	13	14	15
	20	19	18	17	16
	21	22	23	24	25
	30	29	28	27	26

17

The 21st Century Program 評価体制

1次	書類審査	2次	講義1	講義2	講義3		
委員	●●●●	A委員	●●●●	●●●●	●●●●	他に監督等 5~10名	
志望理由書	全志願者 (116名)	レポート	●:主担当				
調査書等		小論文	全受験生(77名)				
活動歴報告書		選択した受験生					
		2次	あ	い	う	え	お
		B委員	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●
		討論	●:文系、●:理系、●:総括 / 3名中1名女性				
		面接	1グループ受験生14~15名				

(人数は2016年度のもの)

- ◆ 評価は、A~Dの4段階評価 (活動歴報告書は3段階評価)

18

評価方法

- ◆ 評価：A～D（活動歴報告書はA～C）
- ◆ 評価順位：1位～48位：直方体のセル
- ◆ 評価(順位)点：1位～受験者数
 - ◆ 同一順位の人数を考慮した順位
- ◆ 合計評価点：評価者ごとの順位の総和
 - ◆ 値が小さい方が高順位
- ◆ 査定
 - ◆ 選抜に関係した35名程度で行う
 - ◆ 討論・面接時の対応、レポート・小論文の評価
 - ◆ D評価を付けた理由について
 - ◆

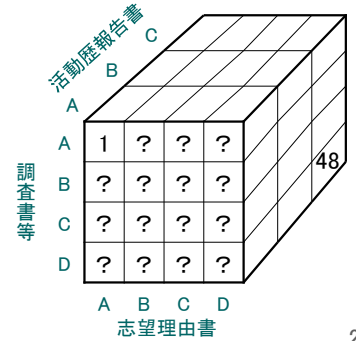
19

多次元マトリックス方式

例：第1次選抜の順位付け(3次元)

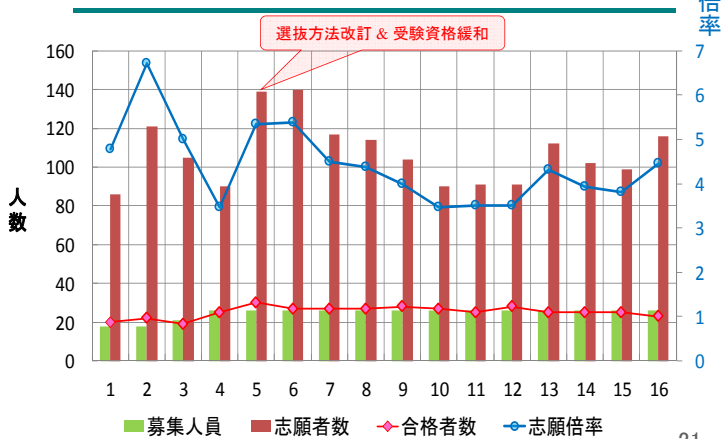
1次：書類審査
4名の委員が各々に
全受験生を評価

- ① 志望理由書
 - ② 調査書等
 - ③ 活動歴報告書
- を3次元で評価



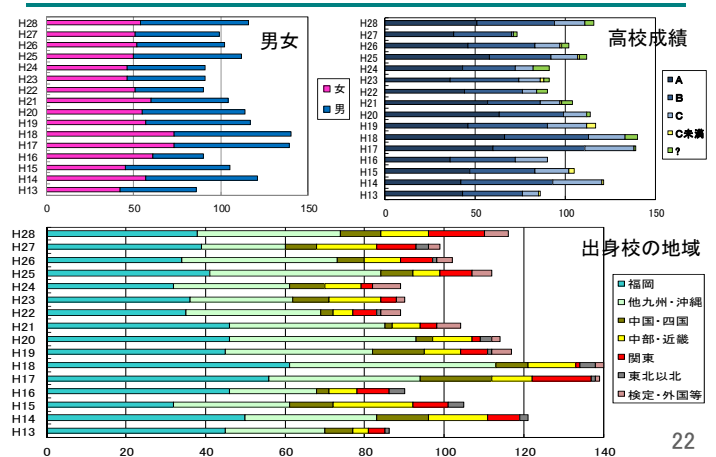
20

The 21st Century Program 志願者数の推移



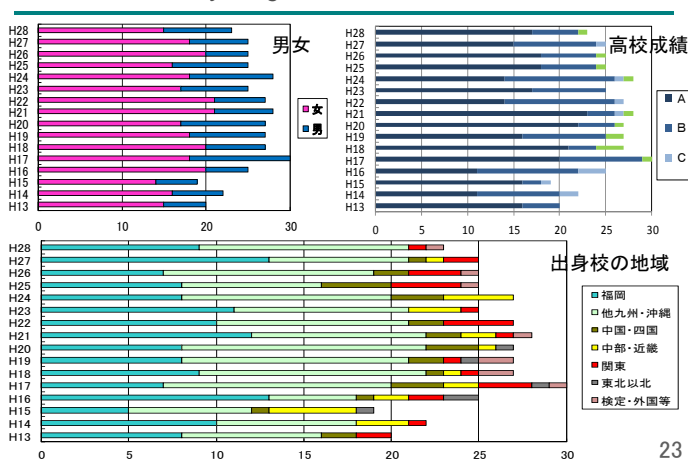
21

The 21st Century Program 志願者の推移



22

The 21st Century Program 合格者の推移



23

九大における多面的評価・総合的試験

- ◆ 九大: 国立大学としてAO入試を最初に導入
- ◆ 今まで16年にわたって実施
 - ◆ 18の募集区分で
- ◆ これまでいくつかの選抜方法を採用・実施
 - ◆ 募集区分ごとにいろいろな工夫
 - ◆ 改良を加えながら
- ◆ 非常に手間がかかる＝魅力的な学生を確保
- ◆ 他に何か方策は考えられるか? 新規開発は?
- ◆ これまでの方法の組み合わせ、バランス

24

九州大学 AO入試の変遷

七試	学部等	～1999	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17
課さない	21世紀プログラム	×	★	18	21								26							
	教育																			
	法																			
課す	創薬科学				40															
	臨床薬学				16															
	物理																			
	化学																			
	地球惑星																			
	数学																			
	生物																			
	保健(3専攻)																			
	環境設計																			
	工業設計																			

セル内の数字は募集人員	総募集区分	3	5	6	11	13	13	16	16	19	20	19	19	19	17	17	18	18	18
総募集人員		76	104	114	156	170	170	179	179	223	237	201	197	197	185	185	195	195	195
総志願者数		469	467	496	594	523	721	696	788	834	786	825	677	728	763	684	689	689	689
総倍率		6.2	4.5	4.4	3.8	3.1	4.2	3.9	4.3	3.7	3.3	4.1	3.4	3.7	4.1	3.7	3.5	3.4	3.4

★:以前の経験なし
 ※法学部はセンター試験を課すAOとして15年に再登場
 多くが推薦からの移行 (現在、推薦入試は実施していない)
 国立大学初 (他に東北・筑波)

九州大学 AO入試の選抜方法

七試	学部等	1次選抜	2次選抜
課さない	21世紀プログラム	書類審査	講義・レポート/討論,小論文,面接
	教育	小論文	プレゼンテーション, 面接
	法	(小論文)	(口頭試問) 09年終了
課す	創薬科学	(書類審査)	(小論文, 面接) 12年終了し 後期に移行
	臨床薬学	(書類審査)	(小論文, 面接) 15年再登場
課す	物理	書類審査	英語学力試験, 面接
	化学		課題探求試験, 面接
	地球惑星		面接
	数学		課題探求試験, 面接
	生物		面接
	保健(3専攻)		小論文, 面接
	環境設計		小論文, 面接
	工業設計		面接, 実技
	画像設計		面接, 実技
	音響設計		実技
芸術情報設計	小論文, 実技を含む面接		
農		小論文, 実技	
			小論文, 面接

まとめ(1): 21世紀プログラム

- ◆学部横断型教育
 - ◆「専門性の高いジェネラリスト」の育成
 - ◆海外留学を推奨＝「外」に開かれた知識、トビタテ!留学JAPA
 - ◆総合大学の利点を活かした教育: 全11学部を履修可
 - 学内の協力のもとに運営
 - 総合大学として提供すべき課程では?
 - ◆アクティブな学生の効用: 多様な学生の一つとして
 - 他学部学生への波及効果も:「カナリヤ効果」
 - ◆「仕組みの構築・運営」には工夫が必要
 - ◆学内外からの理解を得ることに腐心
- ◆大学院進学をもっと増やせれば: 学内外、海外
- ◆より一層の広報が必要
 - ◆「AO入試」という呼称と、その理解のされ方について

まとめ(2): 21cpの入試方法

- ◆大学教育の一端を体験: 講義、ゼミ、レポート等
 - ◆聞く、読む、考える、議論する、まとめる、.....
 - ◆思考力、表現力、協働性、..... <=== 主体性の評価は?
- ◆日頃の高校生活を評価: “対策は不要/困難?”
 - ◆何を考えてきた? 大学に何を求めている? その準備状況は?
- ◆非常に手間がかかる → ◆惜しむべきではない
 - ◆受験側だけでなく実施側も ◆“良い”学生の獲得
 - ◆準備、委員の選定・確保 ◆理念に沿った学生
 - ◆評価方法、公平性、..... ◆改良を続けながら継続
- ◆入試の実施: 人的ネットワークの必要性
- ◆評価方法: 細かなルーブリックは存在しない
 - ◆評価値のたまかな頻度等

まとめに代えて: 今後の大学入試

- ◆1次と2次に相関はあまりない＝悪いことではない
 - ◆“優秀な”受験生の取りこぼしは 1次選抜において是非とも避けなければならない
- ◆多面的評価・総合的試験に向けて
 - ◆これまで実施されてきた試験方法の活用
 - ◆新規開発(?), 組み合わせ、重み付け、.....
- ◆中教審答申が今後の主流となりえるかは不透明
 - ◆特に大人数に対しての実施は困難が予想される
 - ◆3割でさえ可能??
 - ◆それだけの志願者が居るのか?
 - ◆高校教員の“見立て”とは異なる合格者とならないか?
- ◆高校と大学の“より良い”橋渡しを目指して

参考資料

- 中央教育審議会 高大接続特別部会 (第7回), 三田共用会議所(東京), 平成25年5月24日。
 - 「高大接続特別部会△第7回▲議事録」で検索すると、「第7回」のところに議事録と配付資料へのリンクあり(1月27日時点では)。
 - www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo12/giji_list/
- 文部科学省 教育課程課 編集
- 『中等教育資料』平成27年5月号, PP20-25, 特集 高等学校教育と大学教育の円滑な接続, 実践研究
- 「思考力・判断力の評価に重点を置いた選抜試験～九州大学21世紀プログラムを例に～」。